



港南台とその周辺の歴史とむかしばなし



かつて港南台は山と谷の地域でした。その豊富な山河の恵みを受け、縄文時代から人々が暮らしていました。鎌倉時代には、かまくら道中の道、かまくら道下の道、武相国境道、かねさわ道の4本の街道が通り、往来が盛んになりますが、宿場町ではないので、里山の中のひっそりとした村でした。今のように開けた街になったのは昭和40年代以降です。

そんな港南台には、里山を舞台にしたむかしばなしが多く語り継がれています。また、神奈川県全体にまで視野を広げると、「きんたろう」や「うらしまたろう」など、だれもが必ず知っているむかしばなしが残っています。

今回は、港南台とその周辺の歴史を知ることが出来る資料とあわせて、港南台や神奈川県のおむかしばなしの本をご紹介します。

夏休み、ヨコタンがある港南台とその周辺の歴史やむかしばなしを、改めて見つめ直してみたいかたがいませんか？ (図書館 大久保)



港南の歴史研究会編『ふるさと港南の昔ばなし 50話』横浜市港南区役所 1994

港南区に語り継がれるむかしばなしを「たのしい話」「こわい話」などテーマ別に集めたむかし話集です。馴染みがある地区のお話も載っているかも?!ちなみに、ヨコタンの横浜女子短期大学民話研究会が編集した手作りの神奈川県内のむかしばなし集も所蔵していますので、興味がある方はぜひ手に取ってみてください!

時田史郎再話、秋野不矩画『うらしまたろう』福音館書店 1974

浦島太郎伝説は各地に存在していますが、神奈川県では三浦半島が舞台。現在でも神奈川県には浦島太郎関連の地名が多く残り、浦島太郎が使ったと伝えられている井戸も現存しています。



岩崎京子文、津田櫓冬絵『きんたろう』フレーベル館 1984

きんたろう (坂田金時) は、平安時代、源頼光の家来となり京の都で武勇をとどろかせたという伝説の人物。そんな金時が、足柄山で暮らしていた子ども頃のおはなしです。

伊藤武『港南の歴史と文化』港南歴史協議会 2008

港南区の歴史を感じることができる史跡・名勝を網羅した一冊。鎌倉時代、東国武士が「いざ鎌倉」というとき鎌倉にかけつけた古道「早駆けの道」などが写真を交えて詳しく紹介されており、実際に歩いてみたくくなります。

